



←矢切の渡しにあるヤナギが緑になってきた。「やわらかに柳あをめる 北上の岸边目に見ゆ 泣けとごとくに」という石川啄木の詩を思い出す。

→江戸川は波も静かだ。舟はのどかに行く。

十四日の水曜日は初夏のような気温だった。朝のうち堅い包（ほう）に包まれていたハクモクレンが昼ごろにはいつせいにめくられて白い花が開いた。一日おいて十五日の金曜日には雨が降り、明けて土曜日・日曜日と三月なみの気温に戻った。このところ極端な天候が続く。

日曜日の朝、矢切の渡しに下りてみると、舟頭さんの第一声が、

「大変だね……」

「遠藤のこと？」

私は聞き返した。それというのも前頭筆頭の遠藤が出だしはよかったが、あれよあれよというまに三勝四敗で、また負け越して番付が下がるのかと思われるような成績だったからだ。

遠藤という関取は強いといわれながら、まだ前頭から上に行けていない。そのかんに若手力士が追い抜いて出世して行くというのに……。

「そうじゃないよ、佐川さんだよ」

舟頭さんがそういつて訂正した。

佐川さんという元財務省理財局長で国税庁長官だったあのんだ。

今週のクマ

→この日クマは江戸川の堤防の上に登って矢切畑を見つめていた。



→初夏のような気温になった14日、ハクモクレンがわずか半日たらずで満開になった。週末には花びらが散った。



福島県いわき市出身で中学生のときに父が亡くなり、三人の兄の援助で東京に出て九段高校から東大に進学、そして大蔵省（現在の財務省）に入省した。

「そうだよ、その佐川さん。東大まで出て財務省にはいり、出世コースを歩いていたのに、ひとり悪者になってそれで幕引きされたんじゃない、あんまりだよな」

森友問題で文書書き替えの責任をとられ、証人喚問で国会に呼び出される。

「どう考えたって首相夫人が悪いんだと僕には思えるけどなあ。もつとも、安倍さんも悪いよ。もし私や妻が関わっていったとしたら、総理大臣も国会議員も辞めらるってタンカをきった。あの言葉がことの発端だったんだからなあ」

常日ごろ、私は安倍昭恵という人をよく思っていないし、その妻をつなぎ止めないで好き放題にしている安倍晋三という男も信用していない。

「オレたちは偉くないからいいけどさ」舟頭さんがいうとおり、我々は佐川さんのようなことはないだろう。そこは安心している。

世の中は、偉くなればなるほど責任も重くなる。そういうことなのだろう。